

した。令和三年五月に医師法が改正され、医学生診療参加型臨床実習の充実が急務となっています。そこで今回は「新カリキュラムの原案・骨格を作成する」というテーマでワークショップを開催しました。セッションIでは、小児科学講座の中村公俊教授より、新しい臨床実習の概要の説明がありました。さらにセッションIIでは、生命倫理学講座の門岡康弘教授より、臨床実習前のカリキュラムについて説明がありました。各セッション終了後、グルー



第21回熊本大学医学部医学科医学教育FDワークショップ

プワークが行われ、活発な議論が交わされました。今回のワークショップでの議論を元に、現在新しいカリキュラムの作成が行われています。

このFDWSが本学の医学教育を改善し、優れた医師の育成として社会貢献につながると確信しています。

最後ではありませんが、本ワークショップの企画、運営に尽力していただきました臨床医学教育研究センター 古川昇准教授、ならびに大変ご多用の中ご参加していただきました教職員の皆様に感謝申し上げますとともに、御支援をいただきました肥後医育振興会に御礼申し上げます。

## 第二十二回 熊本エイズセミナー報告

ヒトレトロウイルス学共同研究センター

教授・キャンパス長 上野 貴将

熊本エイズセミナーは(旧)エイズ学研究センターのときから毎年継続して主催している国際シンポジウムで、本年は二十二年目にあたります。今回は、新型コロナウイルス感染症の状況から、もともとの予定を変更して実施しました。二〇二一年十月十八日と十九日の二日間にわたって、臨床医学教育研究センター奥窪記念ホールにて、対面式とオンラインを組み合わせたハイブリッド形式としました。海外との交流が困難な状況でしたが、これまで

に培った国際的な研究活動に支えられ、対面とオンラインを合わせて、国内外から約百五十名の参加をいただくなど、非常にアクティブな国際シンポジウムとなりました。海外からは世界的に著名な若手研究者である Stephanie Gras (オーストラリア)、Emily Wong (南アフリカ)、Guangyong Ma (中国)、Xiaoming Sun (アメリカ) からライブでのオンライン講演をいただきました。また、オックスフォード大学、インペリアルカレッジロンドンなどの先進的な研究機関や、ムンビリ大学(タンザニア)などの途上国からオンラインでの質疑が行われるなど、今までにないスタイルとなりました。

また、本センターの若手教員三名が若手セッションを立案し、オンライン形式(Zoom)で二十四件の国内外から応募いただいた大学院生などによる研究発表(口頭)と、オンラインチャットツール(Stick)を介したディスカッションを実施するなど、次世代人材の育成にも貢献できたと考えています。

今後は、海外からの招へい者や国内から対面に参加をいただいた研究者らと、HIV、HTLV-1および新型コロナウイルスに関する複数の共同研究を始めるなど、次回以降の熊本エイズセミナーにおいてこれからの成果が発表出来るような良い循環を形作っていくことを期待しています。

末筆ながら、本セミナーの開催にご



第二十二回熊本エイズセミナー

## 第二十八回 日本航空医療学会総会開催

第二十八回日本航空医療学会総会 会長 (国立病院機構熊本医療センター 院長)

高橋 毅

支援いただきました肥後医育振興会の皆様に改めて厚く御礼申し上げます。今後ともご支援のほど、よろしくお願いたします。

この度、第二十八回日本航空医療学会総会を二〇二二年十一月十九日(金)、二十日(土)の二日間、熊本城ホールにて開催いたしました。直前まで協議を繰り返しましたが、新型コロナウイルス禍の狭